

平成29年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(理科)科目：(物理基礎) 対象：(第2学年 A組～F組)

科目担当者：(A組：印)(B組：印)(C組：印)(D組：印)(E組：印)(F組：印)

教科・科目の 指導目標	身の回りの現象を実験、観察なども通して、自然界の原理・法則を理解させ、自然現象に関する関心を高める。物理的なものの見方、考え方を身につけさせ、科学的な思考ができるようにする。
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	理科の入試問題の正答率は、60%台前半と例年と大きくは変わらない。従って基本問題は80%以上の正答率を得ている。物理分野の記述問題では、作図にかんしては7割近い正答率であるが、データをグラフにする問題では正答率は3割を切っている。 単純で基本的な問題に対しては対応できても、現象を理論的に説明する問題や、図やグラフなどのデータを分析して答える問題はできていない。また、問題の読み違いや誤字、読解力不足の回答も見受けられる。	1. 自然現象を理論的に考え、分析するためのベースとなる基礎知識の定着を図る。 2. 身近な現象を、理論的に表し、説明できる力を身につけさせる。 3. 単独の知識の定着ではなく、複数の知識を組み合わせ結論を導く習慣、力を養う。 4. データを分析し、結論を導きだす力を身につけるとともに、それをまとめ人に伝える力を伸ばす。	①基本事項の定着に重点を置いた授業計画を立て、問題演習を通して活用方法の定着を図る。 ②実験を取り入れることにより、データの分析能力をのばし、結論を導き出す力を養う。 ③講習や勉強合宿を通して、より発展的な問題への対応能力を高める。 ④定期考査において、理解度を細かく測れる問題とし、その後の授業や補習に有効活用する。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			